

長崎の林業

小曾根星堂書



1

長崎県立鹿町工業高等学校（下）と長崎県立北松農業高等学校（上）で産業エキスパートセミナーを開催

目次

● 林政だより	未来を担う「緑の少年団」の紹介と活動への協力の依頼について ……	2~3
● 特集記事	海・川の保全から森林保全へ 彼杵おもしろ河川団 代表 池田 健一さん ……	4~5
● 林業普及だより	「人財が集まり定着する」魅力ある林業事業者の実現に向けて、 10年後も輝き続けるために、人材育成の取組を応援します☆ ……	6
● 地方だより・県北	長崎県立鹿町工業高等学校と長崎県立北松農業高等学校で 産業エキスパートセミナーを開催しました！ ……	7
● 地方だより・島原	生環林へ出かけてみませんか ……	8
● 林業団体情報	令和5年度 九州地区森林技術者講習会（長崎会場） ……	9
● センターだより	ドローン写真測量の活用事例 ～雲仙普賢岳における雨量から推定した土砂生産量を比較～ ……	10
● イベント情報・五島	新上五島町つばき里山まつり ……	11
● 長崎の山と森	樹木医巨樹さるく（安国寺のスギ、国分のヒラギ） ……	12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税を活用して発行しています。

ながさき森林環境税



2024 No.816

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。
「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政だより

未来を担う「緑の少年団」の紹介と活動への協力の依頼について

緑の少年団について

緑の少年団は、次代を担う子ども達が緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育って行くことを目的とした団体で、昭和35年国土緑化推進委員会が「グリーン・スカウト」の名称で緑化を実践する少年団の結成を呼びかけ誕生しました。昭和50年代に「都道府県連盟」の組織化が始まり、平成元年「全国緑の少年団連盟」が設立されました。

令和5年1月1日現在、「全国緑の少年団連盟」には、全国3,095団319,178名が加入しています。

長崎県緑の少年団連盟について

長崎県の緑の少年団連盟は、昭和60年5月28日に設立され、令和5年1月1日現在20団体444名の団員が加入しています。

各地域の団数及び団員数は次のとおりです。

地域名	団数	団員数
県央	5	80
島原	3	62
県北	2	84
五島	5	79
壱岐	4	127
対馬	1	12
合計	20	444

緑の少年団年間の活動について

緑の少年団の令和4年度活動状況報告では、学習活動として、5～6月：田植え、さつま芋植え、6～11月：花苗植栽、9～10月：稲刈り、10～11月：さつま芋掘り、2～3月：木工体験。奉仕活動として、5～2月：花苗植栽、5～8月：除草、2月：植栽イベント、3月：緑の募金街頭募金活動。

レクリエーション活動として、4～11月：地域交流会・研修会、11月：森フェス参加、3月：シイタケ駒打ち体験などの活動をされています。新型コロナの影響で実施できませんでしたが、12月：長崎県緑の少年団連盟主催の発表会及び交流会では、森林に親しみ、大切にすることを学ぶとともに、他の地域の団員との協調や集団の中での規律を学ぶことができます。



花苗植栽活動



シイタケ駒打ち体験

課題について

- ・緑の少年団の課題として、塾やクラブ活動のため余裕がなく、新規入団者が少ないことなどが挙げられます。
- ・指導者の課題として、高齢化で活動の制約があることなどが挙げられます。
- ・学校の先生の課題として、指導の技術が未熟であること、働き方改革が推進されてきていることもあり、土日の活動が敬遠され、なり手がいないことなどが挙げられます。



緑の募金街頭募金



五島地区緑の少年団地域交流集会 (R5. 8)
丸太切り体験



県央・県北地区緑の少年団地域交流集会 (R5. 11)
リース作り

対策について

指導者対策として、長崎県では技術的な支援が受けられるよう長崎県森林ボランティア支援センターで木育支援事業を実施しています。

相談をいただければ、活動場所や講師の手配などの利用支援も行っています。

【相談窓口】

長崎県森林ボランティア支援センター

TEL : 095-895-8655

FAX : 095-895-8656

<https://nagasaki-shinrin.com/>



ながさき木育事業
子どもたちの五感に触れる
森林環境教育をしませんか？

長崎県では県内の小学校4・5年生及び緑の少年団を対象に
森林環境教育のフィールド学習を支援しています。

学習内容は
どうしたら？

校外学習は
ハードルが
高いな...

活動場所や
移動手段は？

費用は？

講師は誰が
やってくれるの？

全ておまかせ
ください！

- 活動場所のご提案
- 専門講師のご紹介
- パッケージプランのご紹介
- 教育資料のご提供
- 交通の手配・補助 など

- 1 森林・林業の専門家が考案したパッケージプランを参考にして、ご希望の活動内容や日程をお伝えください
- 2 ご希望に合わせて実施案及び講師をご提案
- 3 交通手段や教育教材等に関する打合せ

まずはお気軽にお問い合わせください。お問い合わせはこちら▼

【事務局】長崎県森林ボランティア支援センター
〒852-8595 長崎県佐世郡高崎町2-1-1 長崎県庁舎 4F
TEL: 095-895-8655 FAX: 095-895-8656

パッケージプランは
こちらへ▶

終わりに

本県の緑の少年団活動をより活性化させるためには、緑の少年団だけではなく、関係する市町や県と地域で活動されている林業関係者、森林ボランティアなどの技術や人的な支援が必要とされているところです。未来を担う緑の少年団の活動に協力をお願いします。

(林政課森林活用班)

【特集記事】海・川の保全から森林保全へ



彼杵おもしろ河川団
代表 池田 健一さん

東彼杵郡 彼杵おもしろ河川団 代表 いけだ けんいち 池田 健一さん

東彼杵郡東彼杵町でキャンピングカーの内装業を営む池田さん。素潜りが趣味で、東彼杵の海岸にほれ込み、東彼杵町に移住してきました。最寄りの彼杵海水浴場で頻繁に素潜りを楽しむ中で、徐々に海のごみや生き物の数の減少など、水環境が変化してきていることに気づき、保全のために2006年に海の環境整備を行う団体を立ち上げました。

海と川の保全団体の設立

地元有志の方々と「彼杵海水浴場を復活させる会」を設立し、彼杵川汽水域周辺のごみ拾い、草刈りなどのビーチクリーン作戦を行いました。毎回沢山の参加者と一緒に海岸清掃を行うなかで、次第に「風景の美しさは水辺の美しさであり、そこに流れる川や川が接する大村湾が元気で豊かになり、川や海の生き物が昔の豊潤だった頃に戻ってほしい」と考え始めたそう。そこで、大学等と連携してアユの遡上やスナメリの保全など、海と川双方の保全活動に発展させ、地

元小学校と連携して次世代に向けた環境教育なども行う中で、様々な連携相手と共に「彼杵おもしろ河川団」を結団しました。そうした活動が続ける中でアユの遡上も確認され、少しずつ昔の河川環境が復活しつつある中、ある事態が起こります。ゲリラ豪雨により、遡上した魚が土砂で流されたのです。これを受け、海と川だけではなく土砂流出を防ぐために山の保全も必要だと考え、森林保全にも目を向け始めました。

継続的な森林の保全へ

森林保全として「おもしろ河川団森林部」を設置し、東彼杵町の中心にある妙法寺裏山の約4haの森林を最初の活動地として、森林山村多面的機能発揮対策事業を活用した整備を開始しました。活動地の広葉樹林は長い期間放置され、針葉樹林は約50年前に木材として植えられたもので、林内は鬱蒼としていました。森林の保全のためには、森林資源を定期的に活用することが重要だと池田さんは言います。



東彼杵町の協力で設置した薪の乾燥施設

「定期的の間伐することで、森林の持つ多面的機能が発揮され、土砂の流出や土砂災害の防止、水の浄化により川の水は適度な栄養分を運び海へ流れ、海の健康へと繋げることができます。また、この取り組みは継続していかなければ、この自然も未来へ残すことができない。その為には収入と安定した雇用が必要なので、森林資源の活用として薪販売を行い始めました。薪は1年程乾燥させる必要があるため、東彼杵町協力のもと、町が利用していないビニールハウスで乾燥させ、現在は薪として商品化に成功しています。消費者には高品質の薪を提供する一方、SNSなどで取り組みの意義を情報発信し取組を持続しています。また、参道がある妙法寺裏山は、この取組により森林整備が進み林内は明るく町民の方々に喜ばれる森林と生まれ変わりました。森と川と海の全体の取組みのモデルなり町内に限らず全国へ広げていきたいと思います。」

森は命を育む

彼杵おもしろ河川団の取組みは現在17年目に入っていますが、今の活動に発展した重要なキーマンの一人は、志半ばで亡くられた森林ボランティア団体「県北グリーンクラブ」の宮川さんと池田さん言います。宮川さんは20年前に東彼杵町で「21世紀の森」という植樹・育樹活動をされており、彼杵おもしろ河川団の取組みにも賛同して、池田さんと共に活動を行っていました。宮

川さんは活動の中でたびたび「森は命を育む」という言葉をメンバーに話されていたようです。池田さんはその時を振り返りながらこう語ります。

「私は当初はこの言葉の意味がよくわかりませんでした。しかし森から川に土砂が流れる現象がはっきりするにつれ、森や竹林で保全活動を繰り返し徐々に光が差し、健全な森が蘇る姿を見ると、これは川や海の命の森だとわかってきました。当時は地球温暖化やゲリラ豪雨といった定義がない時代でしたが、その予兆は当時から確かにありました。あの頃、宮川さんが言われた『森は命を育む』活動を通して森、川、海の保全を現在のメンバーに受け継いでいます。」

活動を次の世代へ渡す

現在おもしろ河川団は従来のビーチクリーン作戦や妙法寺の裏山の森林保全に加え、竹林整備等も行っています。更に宮川さんの手がけた「21世紀の森」の取り組みを引き継ぎ、森・川・海の保全活動を継続しています。これらの取組みを池田さんは次のリーダーに託すべく現在動いています。

「私は、体は丈夫で元気に活動はできるけどパソコンを使った作業が不得手で、データのまとめが難しい。高齢者となった私は、起爆剤としての役割はできるが、活動を継続していくなら若い人材のほうがいいと考えています。今の取組みは徐々に広がっており、新しい活動地、団体も増える予定です。そうした時に、東彼杵町には沢山の頼りになる若手がいます。遠くから移住してきて東彼杵の為に頑張ってくれる若者もいる。私は彼らの手助けとなる活動をこれからも続けて、若い世代にバトンタッチをしたいと思います。」と、今後の展望を語っていただきました。

(NPO法人地域循環研究所)

林業普及だより

「人財が集まり定着する」魅力ある林業事業体の実現に向けて10年後も輝き続けるために、人材育成の取組を応援します☆

はじめに

長崎県では、農林業の振興施策として「第3期ながさき農林業・農山村活性化計画」(令和3～7年)を定めており、基本理念に『若者から「選ばれる」、魅力ある農林業・暮らしやすい農山村の実現』を掲げています。その中で、林業の将来像として林業専門作業員420人(令和12年目標)の確保を目指して取り組んでいます。



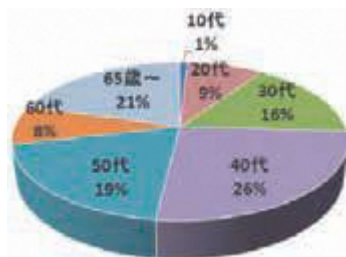
林業の担い手の現状と課題

県内の林業新規就業者数は年間約30人で、近年の林業事業体数は約40者、林業専門作業員数は350人程度で推移しています。新規就業者の5年定着率は約6割で、高齢者の定年退職等も含めると担い手の増加には至っていません。



また、近年は、20代、30代の若い世代の新規就業者も増加しているものの、60代以上も活躍されていることから、平均年齢は、約50歳となっています。

林業専門作業員の年代別割合



人材育成プログラム始動！

このような中、基本理念に掲げる林業の将来像を実現し、林業事業体を強化するため、令和3年度から、林業の人材育成の専門家をはじめ、県内の林業関係団体、林業事業体の有識者で組織する「林業事業体および林業専門作業員育成プログラム策定委員会」で協議を重ね、令和5年3月に体系的な人材育成プログラムを策定し、6月にはシンポジウムを開催しました。



今年度からは、このプログラムに基づいた研修会を開催しており、林業事業体と林業専門作業員ごとに、若手、中堅、管理職(管理監督者)の各階層に合わせ、キャリアアップしていく仕組みとしています。



10年後に向けて

人材の確保・育成は、どの業界においても経営の安定、永続的な発展を願う経営者にとって欠くことのできない課題です。

長崎県の林業事業体においても、魅力ある自らの将来像(ありたい姿)を設定し、その目標に向けて努力される皆様を、人“財”育成の面で引き続き支援してまいります。

(林政課 普及指導班)

※人材を人財で表現しているところは、人は宝・財産という意味を込めた表現です。

地方だより

長崎県立鹿町工業高等学校と長崎県立北松農業高等学校で産業エキスパートセミナーを開催しました！



(フォワーダの操縦体験している様子)



(チェーンソーで丸太を切っている様子)

はじめに

地元高校生に林業という仕事を知ってもらうことや就職先の選択肢として認識してもらうことを目的として、北松農業高校生物生産科1年生(22名)、鹿町工業高校機械科2年生(27名)を対象に産業エキスパートセミナーを開催しました。

北松農業高校は今年で3回目、鹿町工業高校は初めての開催となりました。

森林・林業について学ぶ

セミナーのはじまりは、座学として県北振興局より森林の有する多面的機能、森林整備が必要な理由、森林循環利用とSDGsとの関係やカーボンニュートラルについて講義を行いました。

現地実習は、株式会社 鶴田林業の方に現場講師として、搬出間伐の作業の実演を行っていただき、プロセッサやフォワーダといった高性能林業機械の操縦体験やチェーンソーを使った丸太輪切り体験を指導していただきました。

これまで見たことのない林業機械や林業の作業に感動している姿や初めて触るチェーンソーの始動に苦戦しながらも実習に真面目に取り組む姿がみられました。

セミナー終了後のアンケートでは、扱ったことのない機械を体験できて楽しかった、森の中で仕事をするのは気持ちいいといった感想があり、「林業」について興味を持ちましたかという質問に対してはほとんどの生徒が興味を持ったとの回答がありました。



(プロセッサの操縦体験をしている様子)

終わりに

この産業エキスパートセミナーの成果として、2年前に受講した生徒が来春には林業事業体に就職を予定しています。

今後も林業という仕事について知ってもらう機会として継続し、地元高校生が林業を就職先として選ぶきっかけになると嬉しいです。

(県北振興局 林業課)

地方だより

生環林へ出かけてみませんか

生環林（せいかんりん）とは、生活環境保全林整備事業の略称で、防災施設および森林、歩道、休憩施設などの整備を一体として実施する治山事業です。ここでは島原半島にある生環林を紹介します。

富士山地区

南島原市口之津町にある富士山地区は、標高約180mの小さい山で、山頂部には本家の富士山にある、浅間大社奥宮の分社が建てられています。神社までの参道の整備と周辺の森林整備を実施しており、令和3年度には、ながさき森林環境税を活用し、老朽化した参道の舗装と手すりの再設置を行っています。参道を抜けて頂上まで登ると、口之津町内が一望でき、さらには海の向こうの天草まで望むことができるため、絶好の散策路となっています。



富士山からの眺望 対岸の天草まで見えます



参道 春にはサクラを楽しむことができます

野田浜地区

南島原市加津佐町の野田浜地区は日本の白砂青松100選にも選ばれた美しい砂浜とマツ林の景勝地です。マツ林の中を散策できるように歩道の整備を行っており、ウッドチップを使用し、フカフカとした感触で歩いても疲れにくい舗装となっています。夏には海水浴で多くの方が訪れますが、そのほかの季節も波の音を聞きながらの散策が出来ますのでウォーキングにお勧めです。



野田浜の林内

中尾川地区

島原市南千本木町の中尾川地区は、雲仙普賢岳噴火災害で甚大な被害を受けた地域です。災害対策の治山ダムを施工した後、市民の方が憩いの場として利用できるように、森林の造成と、湧水を利用した水汲み場を設置していますので、是非お立ち寄りください。



中尾川の湧水

林業団体情報

令和5年度 九州地区森林技術者講習会（長崎会場）



はじめに

一般社団法人長崎県林業コンサルタントは今年で設立56年目を迎え、森林・林業に関する技術援助や研修会を主とした公益事業を長年行ってきました。また、近年の異常気象による山地災害の甚大化が危惧される中、地域社会への貢献から生命と財産を守るため積極的に災害復旧業務にも携わってきました。一方で「長崎県民の森指定管理業務」も18年目を迎え、多くの人に親しまれる県民の森として、利用者目線の運営に心掛けております。

今回は、JAFEE（公益社団法人森林・自然環境技術教育研究センター）が主催し、公益社団法人日本技術士会九州支部が協力し、かつ当法人が3回目の現地担当ということで、九州地区森林技術者講習会の日時・場所、講演内容等の決定を任せられました。

これは、有資格者のみならず、一般の方も参加できる講習会です。

九州地区森林技術者講習会

10月31日（火）13時より、諫早駅前のホテルセンリュウで開催いたしました。講師も含め約80名の参加があり、九州各県のJAFEE会員や技術士会員など九州はもとより遠く秋田からも参加されました。

次に講演内容をご紹介します。

① 「五島列島でのツバキを活用した地域振興の取り組み」

講師：県農林技術開発センター 前田氏

五島特産のツバキは油のみならず、ツバキ葉も活用した商品が、地元はもとより県・市町・大学等が連携して開発され、ツバキ全体

を活用する取組が進められてきた。地元の様々な取り組みや、これまで県がどのような支援を行ってきたかをお話しいただきました。

② 「白石地区災害復旧工事について」

講師：県北振興局森林土木課 入江氏

平戸市の生月大橋の平戸島側袂近くで、令和2年7月大雨で山頂崖面下の脆弱層が崩壊した。幸いに人的被害はなかったが、対策工の策定や困難を極めた復旧工事に関して、どのように打開されていかれたかをお話しいただきました。

③ 「日本樹木医会長崎県支部の活動報告」

・長崎県の巨樹と故事来歴

講師：県樹木医会 田嶋氏

県内の巨樹を新たに調査し、地域住民の文化や歴史にどのように関係してきたかをお話しいただきました。

・長崎県の被爆樹木

講師：県樹木医会 久保田氏

長崎市の被爆樹木は被爆遺構に含まれており、毎年簡易診断を元に精密診断を行っている。今回、診断の経過や山王神社の被爆クスノキの処置等をお話しいただきました。

おわりに

長崎県に特化した講演をと考え、講師の先生方にはお忙しい中、快く引き受けてくださり、誠にありがとうございました。今後とも「未来のために人と自然を技術でつなぐ」をスローガンとして、皆様と安全・安心の環境づくりを築きあげていきましょう。

（（一社）長崎県林業コンサルタント）

センターだより

ドローン写真測量の活用事例 ～雲仙普賢岳における雨量から推定した土砂生産量を比較～

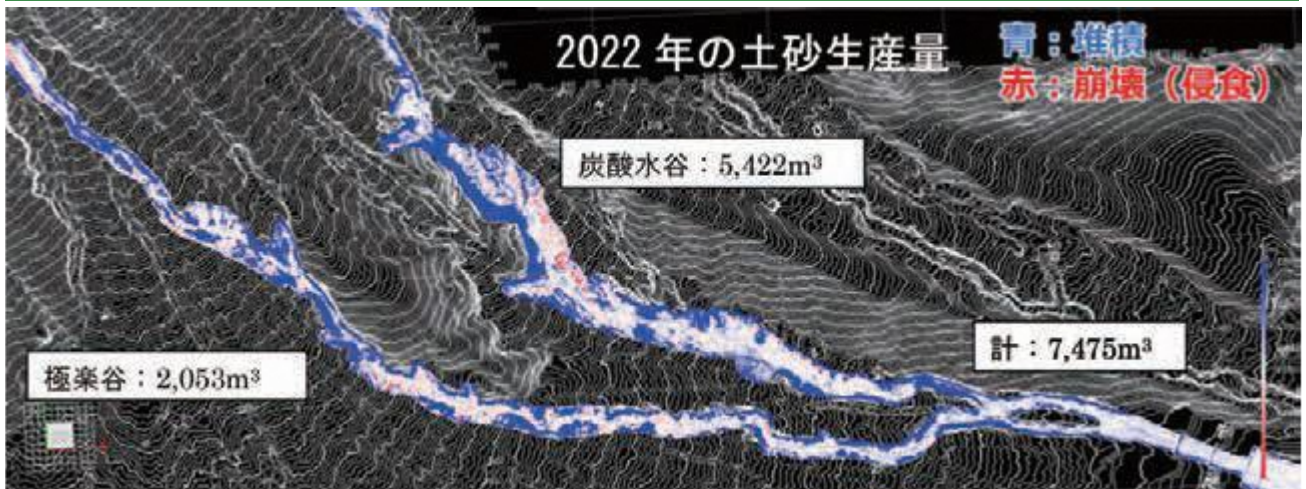


図1 令和4年 土砂生産量

研究の背景

雲仙・普賢岳水無川水系のガリー侵食地の土石流発生が懸念されていることから、土砂の生産が多い「極楽谷」「炭酸水谷」の2渓流についてドローンや航空レーザを用いて土砂生産量を計測しています。土砂生産量と雨量との関係性を探ったところ、年間の最大3時間雨量(以下、3時間雨量)によく適合していました。そこで、令和5年次の3時間雨量による推定値とドローン写真測量による土砂生産量を比較しました。

調査結果

令和3年11月に実施した航空レーザ測量と令和4年10月に実施したドローン写真測量を比較して計算した年間の土砂生産量は、7,475m³でした。また、3時間雨量を用いて推定した年間の土砂生産量は、10,521m³となり、ドローン写真測量と近い値となりました。今回の結果から、豪雨時の土砂生産量の早期評価への活用が期待できます。今後も水無川水系の観測をおこない関係機関と連携した取り組みを続けます。

表1 3時間雨量の推定値とドローン写真測量による土砂生産量の比較

レーザ 測量年次	2022	
	ドローン 写真測量	3時間雨量 による推定値
炭酸水谷	5,422	7,109
極楽谷	2,053	3,412
計	7,475	10,521
3時間雨量 (mm)	85	

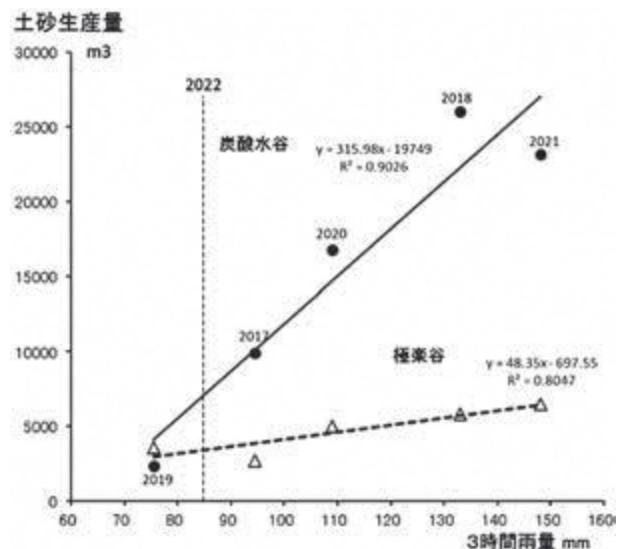


図2 3時間雨量と地形変化の関係

(農林技術開発センター)

イベント情報

新上五島町つばき里山まつり

令和6年2月3日(土)に新上五島町石油備蓄記念会館にて、「第10回つばき里山まつり」が開催されます。この催しは町の花木であるヤブツバキや関連商品を知ってもらい、観光・地域振興に役立ててもらうことを目的として、新上五島町つばき里山まつり実行委員会が主催しています。

会場ではツバキ油や椿木工製品の即売・木工体験、ヤブツバキ苗の無料配布、椿の盆栽や写真展示、長崎県農林技術開発センターによる椿を題材とした講演等が行われるほか、シイタケ種駒打ちや軽食の出店もあるなど、家族で楽しめる催しとなっています。



シイタケ種駒打ち体験(令和5年2月)

「新上五島町つばき里山まつり」は、昨年から6年ぶりの開催となり、天候にも恵まれ大盛況でした。今年も多数の来場者を見込んでいます。皆さんの参加をお待ちしております！



五島椿木工品の展示即売(令和5年2月)

～お問い合わせ～
つばき里山まつり実行委員会事務局
(新上五島町 農林課林業振興班)
TEL : 0959-53-1166

(五島振興局 林務課新上五島町駐在)

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和5年12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	23,500	普通	多い	多い
	16～18	小曲り	21,800	普通	多い	多い
	20～22	直	21,200	普通	多い	多い
	20～22	小曲り	19,100	普通	多い	多い
	24～28	直・小曲り	22,000 ～20,000	少ない	多い	多い

【スギ】

令和5年12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	15,500	普通	多い	多い
	16～22	小曲り	13,500	普通	多い	多い
	24～28	直	15,500	普通	多い	多い
	24～28	小曲り	13,500	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

安国寺のスギ、国分のヒイラギ(壱岐市)

安国寺のスギ

スギは皆さんご存知のとおり、スギ科に属し、日本固有種です。古くはスギが盛んに神社や寺院に献木されており、安国寺のスギもそのようなものであったかも知れません。

安国寺の由来は、足利尊氏が1338(歴応元年)年に全国66か国と2島(壱岐と対馬)に安国寺建立を命じた時に遡ります。壱岐では従来からあった「海印寺」を「安国寺」に改称したのが始まりとされています。

四方に障害物のない環境に1本立ちしているため、スギ本来の整った見事な姿に育っています。真っ直ぐに伸びた幹は上品で力強く、根張りもしっかりしていて素晴らしい存在感があります。

壱岐屈指の巨樹であり交通に便利な名刹安国寺の境内にあるため、壱岐内でも特に有名で、壱岐のシンボルとなっています。



安国寺のスギ

所在地 壱岐市芦辺町深江栄触 安国寺内
樹高 24 m 幹回り 6.7 m

国分のヒイラギ

このヒイラギは1959(昭和34)年秋、壱岐在住の植物学者品川鉄摩氏しながわ てつまによって発見されました。この木の周辺は「美崎神」と言われ、小さな樹叢じゅそうになっていて、それらがヒイラギを守っています。ヒイラギは、老齢になると葉のきよ歯が次第に見られなくなりますが、この木のほとんどの葉はきよ歯がなく、すぐにヒイラギとは判断できないほどです。ヒイラギのなかでこれほど大きなものは珍しく、まさに壱岐の財産と言える巨樹です。



国分のヒイラギ

所在地 壱岐市芦辺町国分川辺触
樹高 14 m 幹回り 3.2 m

(NPO法人地域循環研究所)

長崎の林業 1月号 第816号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp